

平成30年度 大野小学校 教育ビジョン

教育目標 『 かしこく やさしく たくましく 』

重点目標(目指す子ども像)

思いや考えを伝え合い 考えを深める子 互いに認め合い 助け合う子 めあてをもって やりぬく子

学 校

確かな学力の向上 (知)

基礎・基本の確実な定着と
学習意欲の向上

- 学習のきまりの徹底を図る。(特に、「きく」「話す」を重点化し、学習の基盤を整えるとともに、学級の支持的風土も育成)
- 子どもが国語、算数に興味・関心を高めるような学習課題の設定、教材等の工夫や授業と家庭学習がつながるような工夫に努める。

<評価項目と判断基準>

- ア 児童へのアンケート(学習の約束)で、特に「話をしっかりきく」「相手を意識して話す」における児童の肯定的な評価
A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:B基準に至らない
- イ 各期、学年で、授業と家庭学習をつなぐ取組を実施
A:2回以上 B:1回 C:B基準に至らない
- ウ 児童へのアンケートで「国語がすき」「算数がすき」「家庭学習をがんばっている」に関する項目における肯定的な評価
A:70%以上 B:60%以上70%未満 C:B基準に至らない

豊かな心の育成 (徳)

お互いを尊重し、助け合う
態度と実践力の育成

- 道徳授業の充実を図り、学習のねらいと同じ方向性のなかで、子どもが自分ごととして自分なりに現状でできることを素直に表出できることを目指し、指導の工夫に努める。
- 「学校生活振り返りカード」とスマイルタイム(個別の教育相談)を実施し、学級の実態を把握し、子ども同士の心のすれ違いを指導、支援していく。

<評価項目と判断基準>

- ア 自分ごととして考え、道徳的実践力を高めていくことを目指した道徳授業研修の実施
A:3回以上実施 B:1回実施 C:B基準に至らない
- イ 児童へのアンケート(学級力)の項目における児童の肯定的な評価
A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:B基準に至らない
- ウ 保護者へのアンケート(道徳的価値に関する内容)の項目における肯定的な評価
A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:B基準に至らない

個に応じた指導の充実 (支援)

「共生の考え方」に立つ特別支援教育の推進

○ 授業のユニバーサルデザイン化(基礎的環境整備)

- ・児童一人一人を中心に考え、だれにでもわかる授業の推進
- ・だれもが授業に取り組みやすい環境づくり

<評価項目と判断基準>

- ア 「大野小のUDガイドラインに基づき、基礎的環境整備及び合理的配慮を实践
A:全職員が実践 B:80%以上の職員が実践 C:B基準に至らない
- イ 基礎的環境整備、合理的配慮にかかわる研修を通して学んだことを授業に導入
A:全職員が取り入れた B:80%以上 C:B基準に至らない
- ウ 全学級で障がい理解のための授業を12月までに実施し、障がい理解のための授業後のアンケートで、障がいについて理解を示した児童の割合
A:80%以上の児童が理解を示す評価をした B:70%以上80%未満 C:B基準に至らない

○ インクルーシブ教育システムの構築

- ・特別支援学級と通常学級児童の交流学习の推進
- ・一人一人の教育的ニーズに基づいた「個別の教育支援計画」の作成

健やかな身体の育成 (体)

運動意欲の向上としなやかな体づくり

よりよい生活習慣の定着

- 体力テストの実施(1~6年生)
・体力テストの結果の分析に基づく指導の重点化と授業改善
- 全校一斉の運動期間の設定と実施(持久走, なわとび)
- 体を使う遊びの奨励と場の工夫(グラウンド, 中庭, 体育館)

- 食への関心を高め、食生活の大切さを考えさせる「食」に関する指導・授業の実施
- 家庭と連携した「早寝・早起きの習慣化」に向けた取組

連携・協力・支援

家庭, 地域, 黒埼地区学校園

- 家庭, 地域への広報活動
- 地域教育コーディネーターを中核とした教育支援のための地域人材, 保護者ボランティアとの協働
- 地域の活動への教職員の参加
- ◆大野小学校を育む会・学校評議員会・学校後援会
- ◆PTA
- ◆学校保健委員会
- ◆青少年育成協議会
- ◆交通安全推進協議会
- ◆民生委員との情報交換会
- ◆大野商工会議所
- ◆大野小ふれあい協議会

- 黒埼教育協議会
(黒埼中学校, 山田小学校, 立仏小学校, 黒埼南小学校)
・小中一貫教育に向けた取組の協議
*授業公開*他校参観*喫緊の教育課題研修
- 生徒指導研修会
- 不登校未然防止プロジェクト
- 幼保小中情報交換会